

R4 地域協働研究（ステージⅠ）

R04- I -09 「地域ぐるみでのキャリア教育の実践とその効果」

課題提案者 NPO法人みやっこベース

研究代表者 高等教育推進センター 渡部 芳栄

研究チーム員 高瀬 和実・井上 一彦（以上、高等教育推進センター）、早川 輝（NPO法人みやっこベース）

〈要旨〉

本研究では、宮古市含む岩手県全体の地域課題として挙げられる「地域と連携・協働した持続可能なキャリア教育の推進」について、宮古市におけるキャリア教育の現状を明らかにし、NPO法人みやっこベースが実践している「みやっこタウン」の取組を評価することで、宮古市における今後の課題を検討することを目的とした。その結果、望ましい結果も見られたが、いくつかの課題も浮かび上がった。第1に、学校では外部との連携が進んでいる学校段階がある一方で、今後外部との連携をさらにすすめるためには、コーディネート機能を検討しないといけないこと、第2に、みやっこタウンにおいては、仕事以外の活動（ボランティア等）については児童はあまり経験しておらず、現在市内に（少）ない仕事や、起業などの新たに価値を生み出すという観点の創出はみやっこタウンでは実現しきれていなかった。

こうした取組を学校の教育活動とどのように連携させていくのかについても、大きな検討課題として残されている。

1 研究の概要（背景・目的等）

2011年中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、閉じた進路指導ではなく、体系的にキャリア教育を推進することが不可欠としている。その際、学校が、家庭・地域・社会、企業、経済団体・職能団体等の関係機関、NPO等と密接に連携することが重要とも書かれている。しかし、事前・事後の学びや教育活動全体を通した中での位置づけ、関係機関や外部の機関との連携・協働の度合いとその体系性などについては必ずしも明らかになっているとは言えない。

他方、2015年に出された中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」では、学校を核とした地域づくりという考え方が示されており、やはり多様な主体が学校を通して子どもたちに関わることの重要性が示されている。しかし、政策的に求められている「多様な主体」が関わり、あるいは「家庭・地域・社会、企業、経済団体・職能団体等の関係機関、NPO等と密接に連携」したキャリア教育には、まだまだほど遠い現状にあると言わざるを得ない。

上記のような現状から、地域と連携・協働した持続可能なキャリア教育を推進することが宮古市含む岩手県全体の地域課題として挙げられるが、宮古市におけるキャリア教育の現状を明らかにし、NPO法人みやっこベースが実践している「みやっこタウン」（後述）の取組を評価することで、宮古市における今後の課題を検討することを目的とした。

2 研究の内容（方法・経過等）

宮古市内の学校における学校外の組織等と連携したキャリア教育の現状の一端を明らかにするため、キャリア教育の全体計画・学年計画の有無、及び、ある場合にはその中に登場する連携・協働先や具体的事例と、キャリア教育において今後希望する連携先や内容についてのアンケートを実施した。また、みやっこタウンに参加した児童を対象にアンケートを

実施した。本報告書では、2つのアンケート調査の結果を報告し、今後の課題を考察する。

3 これまで得られた研究の成果

1) キャリア教育に関する調査結果

まず、回答があった学校のすべてでキャリア教育の全体計画は作成されていることがわかった。学年ごとの計画の作成状況を見ると、中学校・高校では学年ごとに作成されていることがわかり、小学校では学年ごとに細かく作成しているところが少数であった。従来から「進路指導」という名前で指導が行われてきた中学校・高校では、学年ごとの計画が作りやすいのかもしれない。

連携・協働先について、全体計画を見ると、学校段階を問わず多くの学校で家庭・地域住民を連携先として挙げている。企業については、中学校・高校では連携先となりやすい一方、小学校では連携先にあげている学校は少ない（1校のみ）。NPOについては、小学校では2校ほど挙げているが、中学校や高校では連携先としてあがっていない。

学年ごとの記載がある学校はどの学校段階・学年でも3校ずつとなっていた。そのうち学年ごとに具体的に連携先として記載がされやすいのは、中学校の「企業」が2年生でいずれも連携先に上がっており、職場体験が2年生に組まれている可能性を示唆しているといえる。高校では「地域住民」が1年生でいずれも連携先に上がっており、地域と学校との距離感という意味では徐々に遠くなりうる高校において連携先に上がっているのはやや意外であった。その他では、中学校の「高校」や高校の「大学」は、先に述べたような進学指導の一環と考えられる。また、高校では「家庭」「地域住民」「企業」も比較的多く連携先として挙げられている。いずれも対象の学校数が少ないという理由もあるかもしれないが、現在はすべての県立高校で取り組んでいる高校魅力化の取組も関係している可能性もある。

今後希望する連携先については、記載があったのは全部で

8校（小学校4、中学校1、高校3）であった。小学校では今のところ外部との連携が多くないことは上記のとおりだが、今後希望する外部との連携に関する記載の多さは連携への期待の裏返しと言えるかもしれない。具体的には、「幼稚園」「保育所」「中学校」といった他の学校段階や、「宮古水産振興センター」「マルイ」など具体的な企業等名の記載があった。教育段階の縦のつながりとともに、外部の企業等との連携を求めている様子が伺える。

中学校では、「宮古市の商店街や商工会議所、市役所などとタイアップし、街づくりの一部を担っていけるような活動」という、単に学ぶだけにとどまらず、一步踏み込んだ記載が見られた。また、「地域との連絡調整を担う人材が必要」というメタ的な観点からの記載もあった。高校においても、「地域の小中学校でプログラミングの出前授業を実施したい」という記載や、「魅力化協働パートナーとより一層連携を深めたい」といった同様の記載も見られた。

2) みやっこタウン参加児童のアンケート結果

みやっこタウンはNPO法人みやっこベースが宮古市や市内の事業所などと協力して開催する一日だけの子どもが主役の街であり、子どもたち一人一人が町の一員となって職業体験や町の運営体験など様々な体験をすることで社会に参画するイメージを持ってもらうことが目的である。

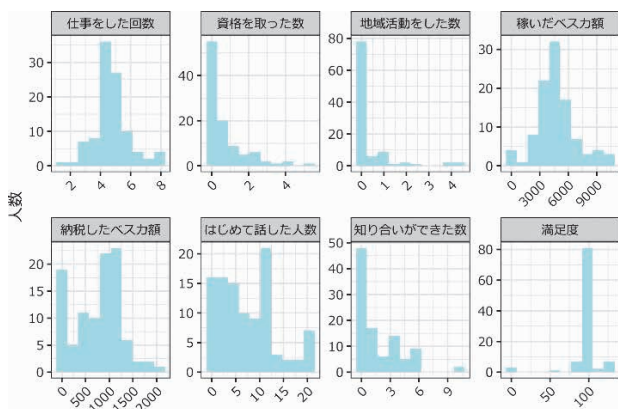


図1 振り返りの回答傾向

みやっこタウン全体を通した振り返り（8項目）について、回答の分布をヒストグラムで示したものが図1である。ヒストグラムを見れば回答の偏りの状況がわかる。特徴的なものの1つとして「地域活動をした数」を見ると、全体として左に偏っており、ほとんどがゼロ付近に集中している様子が見られる（「資格を取った数」「知り合いができた数」もこの類である）。一方「満足度」（どれくらい楽しかったか）については、右に偏っている（すなわち、楽しかった値を100付近で回答した児童が多い）ことがわかる。「仕事をした回数」は正規分布に近く、「稼いだベスカの金額」も正規分布に近い。「納税したベスカの金額」「はじめて話した人数」は、真ん中あたりが最も多くなっているが左のほうにも高い分布が続いている特徴がある。

みやっこタウンで行ったことを集計した結果が図2である。ほとんどすべての児童が体験したのは仕事であり、これ

はみやっこタウンの目的からすると当然の結果である。ついで多いのは、人探しをしてスタンプをもらうことやデパートで買い物をするなどであり、ここまでは9割以上の児童が体験をしていた。一方で少なかったのは起業であり、15%弱の児童にとどまった。また、ボランティアをしたという児童も少なく、この2項目は他よりも体験割合は極めて低い。大学で学ぶことや市民アンケートに協力するというのも、4割程度にとどまっている。

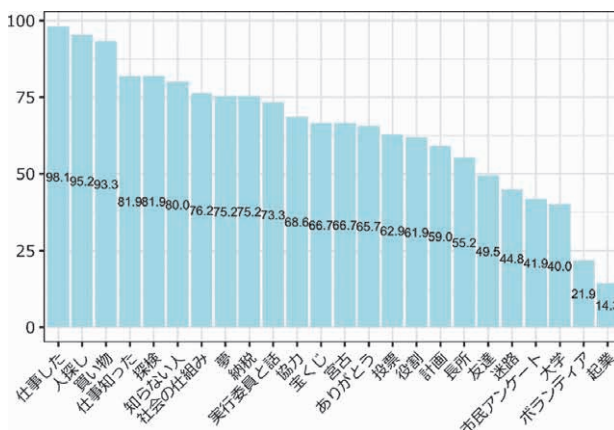


図2 みやっこタウンで行ったこと

4 まとめと今後の課題

宮古市内の学校対象のアンケート調査結果と、みやっこタウンの事後アンケート結果をまとめてきた。調査結果から、いくつかの課題を指摘できる。第1に、学校では外部との連携が進んでいる学校段階がある一方で、自由記述にもあったように、今後外部との連携をさらにすすめるためには、コーディネート機能を検討しないといけない。

第2に、みやっこタウンにおいては、子どもたちが仕事をし、それを通してまちの運営に関わるという狙いは達成できているとも言えるが、仕事以外の活動（ボランティア等）については児童はあまり経験していなかった。また、現在市内にある仕事の紹介はできているとしても、（少）ない仕事や、起業などの新たに価値を生み出すという活動についてはみやっこタウンでは実践しきれていない。

しかし、学校教育ではできない職業体験・キャリア教育を地域ぐるみで実践している貴重な事例であることは間違いなく、こうした取組を学校の教育活動とどのように連携させていくのかについても、大きな検討課題として残されているだろう。

5 その他（参考文献・謝辞等）

国立教育政策研究所生徒指導研究センター，2020，『キャリア教育に関する総合的研究第一次報告書』
渡部芳栄・畠山大・井上一彦，2021，『「学校と地域の連携・協働に関する調査」結果報告』（調査協力校フィードバック資料）

6 研究成果

渡部芳栄他，2023，「地域ぐるみでのキャリア教育の実践とその効果」『リベラル・アーツ』18（編集集中）。